

幼い頃から歌ってきた「たきび」の風景が、
今もそのまま残っていると新聞記事（東京新
聞・2017・2・15付）で読み、先日行って
みた。

記事を目にしてから約十ヵ月経つので、もし
かしたら無くなっているかも…と不安を抱きな
がらだったが、「あった!」。

かきねの 垣根の まがりかど

たきびだ 焚火だ 落葉たき

あたらうか あたらうよ

北風びいふう 吹いている

（巽 聖歌 詞

渡辺 茂 曲）

西武新宿線・新井薬師前から徒歩五〜六分、
静かな住宅街の中に、竹製の垣根が樫の巨木を
間にはさみ込みながら、長くずーっと続き、角
を曲がってまだ続き、またまた曲がって続いて
いる。そのお宅はこれまたなんとも広い敷地で、
その三辺をこの竹の垣根が囲っているというわ
けだ。

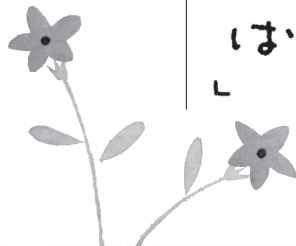
連載エッセイ

Vol.212

耳をすませば

垣根のまがりかど

今井登茂子



タイトル・タカハシカズエ

その上に、まるでジャングルみたいにからみ
合った雑木林も庭の一角にあつて、小鳥がピー
ピーと忙しそうに出たり入ったりしていた。

正直云って垣根ともども、この林が残されて
いることにも驚かされた。

特に今の東京は、目指せオリンピックイヤー
とばかりに、昨日あった建物も今日は無い、の
連続。「あった」と安堵した気持ち、お分かり
いただけるかと思う。

